

学校だより 10月号

平成 28 年 10 月 3 日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004
FAX 048 (547) 1467
URL <http://koya-e.konosu.ed.jp>
e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

【学校教育目標】夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

「がんばっていることは素晴らしい！と思える子を育てたい」
～パラリンピックや父との思い出から～

校長 渡辺 勝徳

台風の影響で9月の中旬は連日の雨。昔から「秋の長雨」と言いますが、今年は雨の日が例年に比べ、多いような気がしています。皆様、体調を崩したりしていませんか？

さて、9月18日にリオパラリンピックが終わりました。先日、私はテレビである女性選手のことを取り上げていた番組を観ました。その選手は、17歳のときに交通事故に遭って車いす生活になったそうです。初めは長野パラリンピックのアイススケートで金メダルや銀メダルを取り、その後、陸上競技に転向。アテネ夏季パラリンピックでも金メダルと銀メダルを取りました。今回は、アテネ大会のマラソンで銀メダルだったので、金メダルを目指して挑戦している姿を取り上げていました。結果は優勝選手とわずか1秒差で4位でしたが、私としてはそこに至るプロセスを考えると、金メダルをあげたい気持ちでいっぱいになりました。もっと言うと、参加した選手全員に金メダルをあげたいと思いました。

健康に生活してきた人が突然の交通事故で車いす生活になるとわかったときには、きっと相当なショックを受けると思います。そういう中で、気持ちを立て直し、パラリンピック選手になり、結果を残すということは、普通では考えられないくらいの本人の努力と精神力、そして家族をはじめとする周りの人々の協力や応援が必要だったのではないのでしょうか。夫と息子が一生懸命に協力・応援する姿や歯を食いしばって頑張っている選手の姿に感動しました。

ところで、私の父の話をしたと思います。父は49歳で倒れました。脳出血でした。それは家族で父の誕生日を祝った次の日のことで、突然のことでした。私は、それまで脳出血という言葉は聞いたことがあるけれど、どんな病気なのかを知りませんでした。父が倒れて、初めて脳出血という病気は、ひどい場合には死ぬかもしれない、また、死ななくても障害が残る可能性が高いということを知りました。父は、幸い、助かりましたが、右半身不随と失語症になりました。右半身不随とは、簡単にいうと、右手と右足が不自由になることです。また、失語症というのは、話せないわけではないが、言葉がなかなか出ない、わかっているのだけれど、単語が出づらくなって意思の疎通が思いどおりにできないというものです。父は意識不明の状態がしばらく続きましたが、意識が回復すると、すぐにリハビリを開始しました。それは、私の2人の弟がまだ大学生だったからです。言われたことが自分の思うようにできず、歯を食いしばってリハビリに励んでいました。また、自分から上尾のリハビリテーションセンターに入所すると言い出し、約1年間、上尾でリハビリ生活をしました。

ある日、父と銀行に行きました。すると父がフロアの担当の女性行員に何か話しかけ始めました。「あの一」「うーんと、うんと」言葉が出ません。結局通じません。見ていた私は、代わって事情を話し、要件を伝えました。そのとき私は、父のことを「みっともないなあ、いやだなあ」と思いました。あとで、私は障害のある父のことを差別的な目で見ていたことに気づき、激しく後悔しました。体が不自由になって、懸命に意思を伝えようとしていた父のことを恥じていた自分こそが恥ずかしい人間でした。それから父を見る私の目は変わりました。障害があることが恥ずかしいのではない、そのことを差別をしていることが恥ずかしいことなのだと（当時も差別は絶対にしてはいけないと思っていましたが、銀行に行った出来事の中には、父に対して思ったことが差別だとは気づいていませんでした）。

平成28年4月1日、障害者差別解消法が施行になりました。「この法律では、障害を理由とする差別の解消を推進することにより、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現を目指しています。」（「教育の最新情報がよくわかる本3」教育開発研究所 P101 から引用） 障害の有無には不便さの問題があります。それは解消していかなくてはなりません。でも障害があるかなんかが問題ではありません。誰でも多少の問題は持っています。その人ががんばっているかどうかとそこに至るまでのプロセスを見られる児童を育てていきたいと思っています。

小谷っ子応援団！（４）楽しい雰囲気演出 掲示ボランティア

小谷小の校舎内はすてきな掲示物であふれています。各階には、カラフルで工夫を凝らした掲示物がたくさん貼ってあり、特別教室や廊下を楽しい雰囲気にしてくれます。

ほとんどは、本校の掲示担当等の職員が作ったものですが、図書室や図書室前廊下、家庭科室、音楽室、２階の階段の踊場の十二支の掲示物、職員玄関の入り口案内の掲示物などは、掲示ボランティアの小林恵美さんが作ったものです。どの掲示物も子どもたちにとって親しみやすい、その場所の雰囲気に合わせたものです。音楽室の掲示物は壁一面にわたって作ってあり、かなりの大作です。図書室や図書室前廊下、家庭科室の掲示物は立体的で、素晴らしいものです。職員玄関の掲示物は、季節ごとに変わってくださいます。秋はハロウィンがテーマになっています。

本校においての際は、ぜひご覧ください。小林さん、ありがとうございます。

「学力・学習状況調査」の結果をお知らせします。

先日、１学期に行った「全国学力・学習状況調査」の結果が届きました。対象は６年生で、教科は国語と算数でした。小谷小学校の６年生の結果は、国語Ａ（主として知識）と算数Ａ、算数Ｂでは国の平均点を大幅に上回りました。国語Ｂ（主として活用）でも国の平均点をわずかに上回りました。

また、「埼玉県学力・学習状況調査」では、対象は４年から６年生までで、教科は国語と算数でした。６年生の結果は国語と算数とも県の平均点を上回り、特に算数は大幅に上回りました。５年生の結果は国語と算数とも県の平均点まで届きませんでした。４年生の結果も国語と算数とも県の平均点を上回り、特に算数は大幅に上回りました。

これらの学力・学習状況調査は、決して学校間や学年間の学力を比較することが目的ではありません。あくまで、子どもたちの現在の学力の実態を把握し、今後の指導に活かすことが目的です。どこが理解できていて、どこが弱いのか。きちんと本人及び保護者と担当教員が把握して、家庭学習や授業の改善に役立て、今後、学力を伸ばしていくことが重要です。上記の結果からは、少なくとも今以上に国語の学習（言語活動も含めて）と国語と算数ともに応用力をつけることに力をいれていかななくてはならないことが読み取れます。また、どんなところにつまづきがあるのかも確認する必要があります。こうしたことを丁寧に確認しながら、今後の学習活動に役立てていきたいと考えています。ご理解・ご協力のほど、お願いします。